



レバノンの難民キャンプでUNRWA運営の医療施設を訪問した萩原さん。母親が出産したパレスチナ赤新月社が経営する病院でもこの手帳が使われ、その際の出産記録が適切に記入されていた

パレスチナ版を参考に、新たに作成されたUNRWA版母子健康手帳。ヨルダン、シリア、レバノンに住む難民の母子保健を支える

「これまでUNRWAが各難民キャンプで使用していた母子保健カードは、内容が非常にシンプルでした。母子健康手帳は、子どもの成長を豊富なデータで分かりやすく記録できるため、現場の医療従事者、母親の双方とも満足しています」と話すのは、JICAとともに手帳と母子保健の改善に取り組むUNRWAのアリ・ハーデル医師。自身もパレスチナ難民の一人であり、「難民の母親たちが正しい知識を持ち、適切な時期に適切な健診や処置を受け、元気な赤ちゃんを産んでいる姿を見ると本当にうれい。この手帳はパレスチナ人の誇りで

先の見えない日々、不安定で我慢を強いられる生活の中、パレスチナ難民にとって、生まれてくる子どもたちはまさに未来への希望。そんな人々の思いを一身に集める小さな命を、母子健康手帳は今日も見守り続けている。

レバノン・シャティーラの難民キャンプの様子。長年の難民生活の中で、キャンプはテントから街へと変ぼうしたが、貧困や失業、人口増加に伴う衛生環境の悪化など、人々の暮らしは厳しい

の運用や管理を学ぶ研修、現地での保健行政の強化、医療技術訓練、住民への啓発活動なども実施し、08年よりヨルダン川西岸地区で、手帳の全面的な運用が始まった。また、09年からはガザ地区のUNRWA医療機関でも手帳が使われている。

「日常的に移動に制約があり、同じ医療施設に通い続けることが困難な中、以前は施設によって提供されるサービスの中身が異なり、また健診結果を記録する様式なども統一されておらず、母子が継続的なケアを受けにくい状況にありました」。そう話すのは、09年までプロジェクトのチーフ

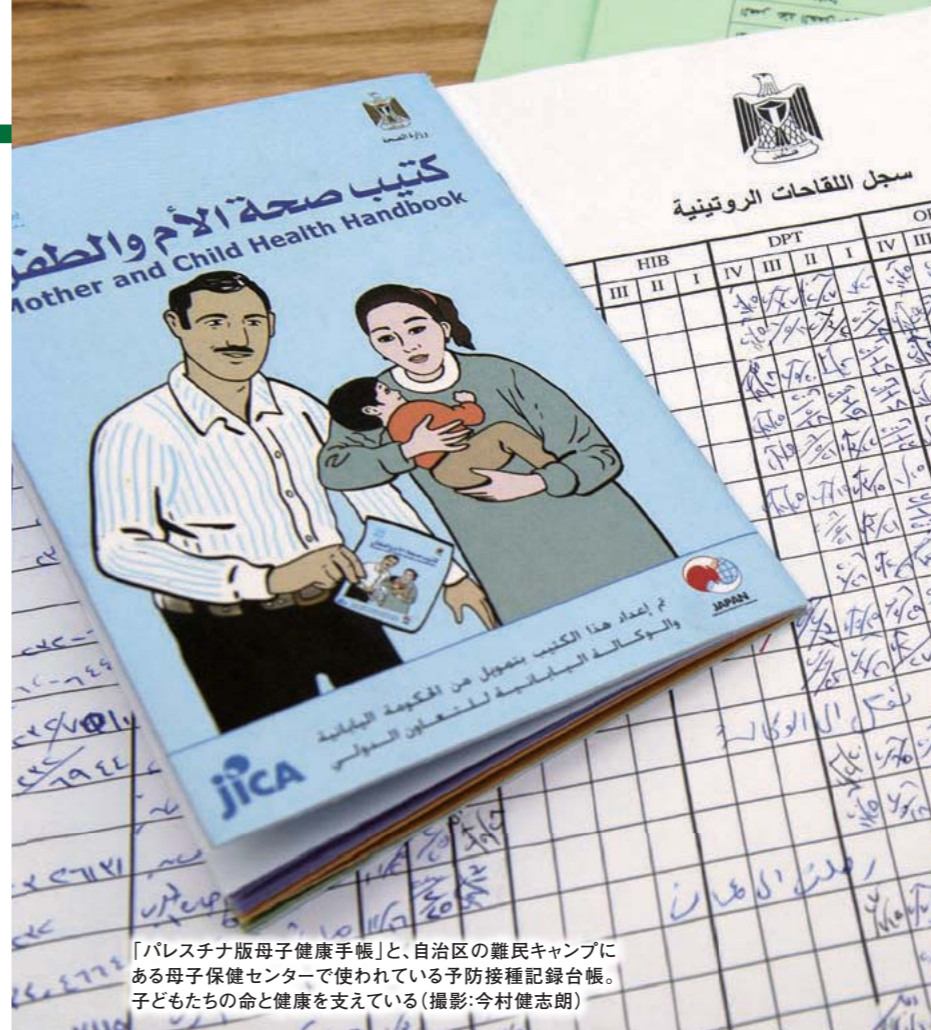
周辺国の難民キャンプへ広がる「命の手帳」

そして今、「パレスチナ版母子健康手帳」は、周辺のヨルダン、シ

アドバイザーを務めた萩原明子・JICA国際協力専門員。「そもそも妊娠・出産のリスクや乳幼児の健康管理に対する人々の意識も低かった」ともいう。手帳が導入された現在は、共通のサービ

スが各施設で受けられ、中には母親の健康管理や家族計画、乳幼児の予防接種・発育などに役立つ情報も記載されるなど、まさに母子の命と健康を守る必需品として、広く普及している。

リア、レバノンで暮らすパレスチナ難民にも普及しつつある。JICAは、各国の難民キャンプで保健サービスを提供するUNRWAと協働し、手帳の作成、運用ガイドラインの策定、難民キャンプでの普及活動に取り組むなど、準備を進めてきた。また、日本政府の支援を受け、医療従事者の研修や必要な機材の整備も行ってきた。その結果、2010年1月から8月にかけて、ヨルダン、シリア、レバノンと、次々と難民キャンプでUNRWA版母子健康手帳の運用が開始された。



「パレスチナ版母子健康手帳」と、自治体の難民キャンプにある母子保健センターで使われている予防接種記録台帳。子どもたちの命と健康を支えている(撮影:今村健志朗)

500カ所以上の検問所、張りめぐらされた分離壁、度重なる道路封鎖や外出禁止令。人口約370万人のパレスチナ自治区の人々は、私たちに想像し難い困難に直面しながら、日々の生活を送っている。1948年のイスラエル建国で、住んでいた土地を追われたパレスチナ人の一部とその子孫である彼ら。半数以上(約190万人)が国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)に難民登録されており、政治的・物理的に分断されたままのヨルダン川西岸地区とガザ地区に分かれて暮らしている。

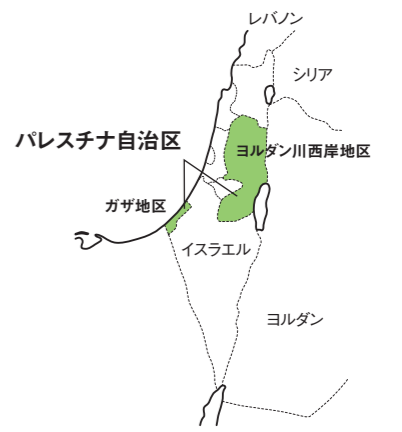
子どもたち。増え続ける分離壁や検問所などが妨げとなり、医療施設に通えず、出産の兆候や異常を早期に発見できない事態が多発している。中には検問所で長時間待たされ、その間に出産してしまう女性もいるという。5歳未満の子どもの死亡率は1000人当たり約20人。妊婦の約4割、生後9カ月以下の乳児の半数近くが貧血の症状を見せるなど、母子を取り巻く健康状況は厳しい。

そこで2005年からJICAが実施しているのが「母子保健プロジェクト」だ。戦後、日本の母子保健水準の向上に貢献してきた「母子健康手帳」を参考に、保健庁、国連児童基金(UNICEF)などと協力して「パレスチナ版母子健康手帳」を作成。日本で手帳

手帳を通じて妊娠や子育てについての正しい情報が得られるようになり、父親も以前より積極的に育児に参加するようになった



from PALESTINE



手帳がはぐくむ希望

60年に上る争いで先の見えない生活を送るパレスチナ難民にとって、子どもたちはまさに未来への希望。産声を上げるたくさんの小さな命を守るため、JICAはパレスチナ自治区とその周辺国の難民キャンプで、母子健康手帳の普及と母子保健の改善に取り組んでいる。